

●平成26年度事業実施報告（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

平成26年度の協会運営は、平成26年の定時社員総会で承認された事業計画と予算に則り、公益社団法人として、代表理事会長・理事副会長のもと理事会の執行機関として8つの「委員会」を設置し、各「委員会」ごとに責任を持って事業を推進し、全体を調整する機関として「総括運営委員会」を置き、当協会の理念に基づき、多岐にわたる協会の事業を具体的に効率よく実施し、収支ともほぼ予算内で行いました。

**A. 公益事業**

**1. 日本写真協会賞の平成26年表彰及び平成27年選考【表彰委員会】**

**○平成26年対外発表及び表彰式、展示会の実施**

- ・我が国の写真文化活動に顕著な功績が認められた内外の個人、団体をはじめ、前年に優れた作品・評論を発表された方々の中から2月18日に各賞の受賞者を選定した平成26年日本写真協会賞を、4月16日にカメラ記者クラブで対外正式発表しました。又、関係諸機関・一般紙報道機関や公共機関には、ニュースリリースを配布して広く写真愛好家に告知するべく広報活動にも注力しました。  
その後、表彰式を、6月2日午後5時30分より三田の笹川記念会館で開催し、引続き同館レストランで受賞者祝賀会パーティーを東京写真月間レセプションと兼ねて開催し200名の方々に参加いただきました。
- ・受賞作品展は六本木の富士フィルムフォトサロン東京で5月30日～6月5日に開催し、六本木という場所柄もあり、会員や写真愛好家以外にも多くの方々に受賞者の受賞内容を鑑賞いただきました。

○平成26年受賞者及び受賞理由（敬称略、五十音順）

☆作家賞： 上田義彦

広告写真で長きにわたり際立った活動を示し、国際的にも高い評価を得る傍ら、Gallery 916 を設立し、近作「Materia」シリーズのみならず広く写真の魅力を伝えている。その旺盛な活動に対して

☆作家賞： 須田一政

40数年にわたり、日本各地を旅して出会った光景を一貫した作風で写しとめ、それらの作品を東京都写真美術館「風の片」展で結実させた。その長年の写真制作活動に対して

☆新人賞： 齋藤陽道

「感動」「宝箱」ほか、独特の宇宙観を持ち、強く自分の思いを表現した作品は光に満ち、観る者を強く引き込む。その作品制作活動に対して

☆新人賞： 清水哲朗

1997年からモンゴルへ通い、風景とそこに暮らす人の営み取材し続け、写真集と写真展に結実させた。国境を越え、人と人を写真の力で結びつけるその活動に対して

☆国際賞： 野町和嘉

世界各地を取材・撮影し、人々の宗教的な祈りの力と普遍的な人間の営みを国内外で発表して日本写真文化の力を知らしめた。その国際的功績に対して

☆功労賞： 久保走一

永年にわたり写真のハード面から学問的研究に携わり、表現と技術の融合に努め、同時に多くの優秀な研究者を送りだしてきた。その功績に対して

☆功労賞： 田沼武能

現役を貫いて精力的に作家活動を続けるとともに、日本写真家協会会長、日本写真保存センター設立推進連盟副代表をはじめとした要職につき、永年にわたり写真界に多大な貢献を果した功績に対して

☆学芸賞： 蔦谷典子

米子市美術館及び島根県立美術館において、「芸術写真」、植田正治、森山大道、亀井茲明、奈良原一高等の充実した写真展を企画、実現させた。その精力的なキュレーター活動に対して

## ○平成27年受賞者の選考

平成27年日本写真協会賞の選考は、恣意的な選考に陥らないよう、会員及びノミネーターから昨年末までに候補者の資料を広く収集し、平成27年2月18日(水)、5名の選考委員による「選考会」を開催し、作家賞2名、新人賞2名、国際賞1名、学芸賞1名、功労賞2名、の受賞者を内定致しました。

これを平成27年3月19日開催の理事会で承認決定し、年度の改まった平成27年4月15日に对外発表。

### ○選考委員 (敬称略、五十音順)

飯田 鉄 (写真家)

上野 修 (写真評論家)

北井 一夫 (写真家)

河野 和典 (フォトエディター)

田沼 武能 (写真家・日本写真家協会会長)

### ○平成27年受賞者及び受賞理由 (敬称略、五十音順)

#### ☆作家賞： 原 芳市

ストリッパーを被写体としたドキュメンタリー写真を長年撮り続け、近作では夢と現実の狭間を歩き回る心情的写真へと変貌を遂げた。その長年の写真制作活動に対して

#### ☆作家賞： 南川三治郎

美術家や作家の創作現場を捉えた初期の作品から、近作の伊勢神宮をテーマとした作品まで、被写体やテーマと真摯に向き合う姿勢と周到な取材で、たゆみない撮影を重ねてきた。長年の写真制作活動に対して

#### ☆新人賞： 石川竜一

スピード感と柔軟さを活かして沖縄を重層的に捉えた作品は、写真集『絶景のポリフォニー』、『okinawan portraits 2010-2012』他で発表され、話題を呼んだ。将来が期待されるその制作活動に対して

#### ☆新人賞： 中井精也

「1日1鉄!」や「ゆる鉄」などにより鉄道写真にイノベーションを巻き起こし、更に社会性の濃い表現も追求するなど、鉄道写真の可能性を切り開いてきた。その馬力と牽引力溢れる制作活動に対して

#### ☆国際賞： サイモン・ベーカー

ロンドンのテート・モダン美術館写真部門責任者として、日本の写真作品の収集・展示を積極的に行い、また著作を通じて日本写真を世界に広く知らしめた。その多大な尽力に対して

#### ☆功労賞： 川口邦雄

自然に対する幅広い知識に裏打ちされた独自の個性により、半世紀以上に渡り山岳写真に大きな存在感を示してきた。その長年に渡る写真界への貢献に対して

#### ☆功労賞： 鏑山英次

東京新聞写真部員として活躍し、退職後は武蔵野を流れる野川の再生や津軽の撮影など、写真と社会との融合を考え活動してきた。その長年の功労に対して

#### ☆学芸賞： 白山真理

著書『<報道写真>と戦争 1930-1960』において報道写真という視点から戦前・戦中・戦後を連続性において捉え、また資料的な裏付けのもと、日本写真史の空白を埋めた。その画期的な労作に対して

## 2. 「東京写真月間2014」の開催と「大阪写真月間2014」への協賛 【写真月間委員会】

今年で創設19年目を迎えた「東京写真月間2014」は、当協会及び東京都写真美術館共催、外務省、環境省、文化庁、東京都、ミャンマー連邦共和国大使館の後援、27の企業の協賛、YUKI TORIIの特別協賛、その他多くの協力・特別協力を頂き、5月17日から約6週間にわたって開催し、延べ入場者数35,661人を数え、6月27日好評のうちに終了しました。また地方巡回展には、北海道東川町、新潟県、福島県、長野県池田町、名古屋市、大阪府、高知県での巡回展示開催いたしました。

**○国内展 「いのちの伝承-日本の世界自然遺産をめぐる いとなみ」**

総入場者数 13,925名

国内企画展では、日本に登録されている4カ所の世界自然遺産「知床」「白神山地」「小笠原諸島」「屋久島」に焦点を合わせ、その地域や周辺の自然環境の中で繰広げられる人々や生き物たちを捉えた写真家の視線を通して、自然との関わりを見つめた写真展を開催。その後「写真の町」東川町文化ギャラリー7月12日～29日、福島テルサ8月30日～9月9日、高知県の町紙の博物館平成27年1月2日～11日を巡回致しました。

**寺沢孝毅写真展「知床 万物共生の半島（しま）」**

コニカミノルタプラザ・ギャラリーC 5月20日～29日 入場者数 5,832名（10日間）

海からそびえ立つ山岳地帯と、それを囲む海からなる知床。そこには流水を源とする植物プランクトンの大発生や、ヒグマやクジラを頂点とする生態系がある、多様に織りなす生命の連鎖はダイナミックに凝縮されていて、陸続きの半島なのにひとつの島に見える。島で織りなされる人・自然・動物たちとの共生の姿こそ、知床の真価を表す写真展。

**MANA 野元学写真展「BONIN ISLANDS 小笠原」**

リコーイメージングスクエア新宿（ペンタックスフォーラム）5月21日～6月2日 入場者数 4,000名（12日間）

東京都に世界に誇れる自然がある。東京から南へ1000キロ、太平洋にポツンと浮かぶ小さな島々、それが小笠原諸島。亜熱帯で「ガラスの生態系」と呼ばれる独特な貴重な生態は、外来種の侵入・人的要因で壊れやすい。青く美しいボニンブルーの海の生態と共にいつまでもそのままの姿で残したい自然の世界を写真で展示。

**堀江重郎写真展「神々からの伝言」**

オリンパスギャラリー東京 5月29日～6月4日 入場者数 1,179名（6日間）

屋久島は亜熱帯から亜寒帯まで日本列島の自然が凝縮された島である。世界屈指の降雨量によって多彩な植生と生命の多様性があり、600種類以上の苔が地表を覆う緑の世界は神秘的で人々に感動と癒しを与える。樹齢数千年の屋久杉はまさに「神の領域」と称されています。しかし花崗岩の島ゆえ、多量の雨の影響を受け、動植物にとって過酷な環境でもある。神々が与えた試練と自然の営みがある島、屋久島を捉えた写真展。

**夏野菜月写真展「Bonin smile」**

エプソンイメージングギャラリー・エプサイト 5月30日～6月12日 入場者数 2,206名（12日間）

無人島から日本の領有、戦争、占領、返還を経て、移住者を引きつける島、小笠原諸島。欧米系島民、戦前からの旧島民、戦後移住した新島民、それぞれの人に歴史があり、軌跡があり、笑顔がある。小笠原に在住する写真家は、日々その自然と人に接し島で生きる人々の姿を通して「生」とはなにかを表現した写真展。

**戸川覚写真展「阿仁根子」**

ヒルトピア アートスクエア（ヒルトピアショッピングアーケード内）6月4日～17日 入場者数 708名（14日間）

世界自然遺産・白神山地に代表される東北の自然は、人々の思想や文化の発達に深く関わってきた。マタギの世界は戦前、狩猟の営みは日本の山村にとって重要な産業であった。しかし世の中の進歩と昭和の大戦を境に絶えた「マタギ文化」とはどういうものであったか。最後のマタギ集落である阿仁地域に伝わる郷土芸能「根子番楽」を保存する根子集落の人々が、孫への伝承を通して、自然信仰に生きたマタギたちの心を写真家は捉えた。

**○国際展「アジアの写真家たち2014 ミャンマー」**

総入場者数 6,828名

2004年からアジア諸国と写真を通じた国際文化交流を行う目的で始めた国際展は、文民政権の発足後、民主化と経済改革が着々と進み経済成長に期待がかかるミャンマーを取り上げ、「The Progressive Photographers of Myanmar Now 1～4」と題して、ミャンマーの多彩な写真家たちの写真展を開催。

- 「The Progressive Photographers of Myanmar Now 1」  
 キヤノンSタワー2F オープンギャラリー 5月20日～6月9日 入場者数2,452名（18日間）  
 Kyaw Kyaw Winn / Kyaw Zaw Lay / Thandar Soe
- 「The Progressive Photographers of Myanmar Now 2」  
 Art Gallery M84 5月26日～6月7日 入場者数240名（10日間）  
 Maung Ni Oo / Soe Than Htike / Zaw Min
- 「The Progressive Photographers of Myanmar Now 3」  
 新宿ニコンサロン 5月27日～6月9日 入場者数3,428名（14日間）  
 Htoo Tay Zar / Kaung Htet / Ye Aung Thu / Min Zayar Oo

・「The Progressive Photographers of Myanmar Now 4」

ヒルトピア アートスクエア 6月4日～17日

入場者数 708 名 (14 日間)

Aung Pyae / Thet Htoo / Soe Zeya Tun / Myanmar Street Photographers / Ko Phyo / Win Naing

「アジアの写真家たち 交歓パーティ」

キヤノンSタワー3FキヤノンホールS ホワイエ 6月3日

出席人数：200名

3名の写真家を招聘し、3名のミャンマー関係者を加えた、交歓パーティーで日本の写真関係者と懇親ができたほか、招聘写真家によるギャラリートークを行い、多くの参観者との間で写真表現の狙い、真意などについて熱心な質疑応答が行われました。

○「写真の日」記念 公募による写真展・2014

新宿パークタワーギャラリー3 6月20日～23日

入場者数 400 名 (4 日間)

応募人数 996 名、応募枚数 2,444 点の中から外務大臣賞・環境大臣賞・優秀賞・協賛会社賞 (38 社) などの他合計 317 点展示。

選考委員：安珠、テラウチマサト、(公社) 日本写真協会

表彰式：6月15日 200名

「写真の町」東川町文化ギャラリー7月12日～29日、富士フォトギャラリー新潟8月2日～12日、福島テルサ4Fギャラリー8月30日～9月9日、富士フィルムフォトサロン大阪9月26日～10月2日、HCL フォトギャラリー名古屋11月5日～17日、北アルプス展望美術館(池田町立美術館)11月29日～12月14日、高知県の町紙の博物館 2015年1月2日～11日の7か所を巡回しました。

○「1000人の写真展 《わたしのこの一枚》」

新宿パークタワーギャラリー3 6月25日～29日

入場者数 5,000 名 (5 日間)

※世界各国に配布する総務省発行統計本「STATISTICAL HANDBOOK OF JAPAN 2014」に8点選出掲載。

○企画展「見つけた！撮った！ワンダーランド」

みどりのiプラザ／ギャラリー1 5月17日～6月27日

入場者数 2,000 名

1. 「こどもの目線」写真展 2014 1,100 点展示 5月17日～6月4日

2. 「G サミット 2014」 120 点展示 6月7日～27日

※5月18日 写真展に参加した子供たちによるキックオフイベント実施 (緑と水の市民カレッジ 3F)

○日本写真協会賞受賞作品展

日本写真協会賞受賞作品展は5月30日～6月5日、東京六本木の富士フィルムフォトサロンで開催しました。

入場者数 7,308 名 (7 日間)

○オープニングセレモニー

6月2日 午後6時40分より三田の笹川記念会館レストランで、日本写真協会賞受賞者祝賀会、叙勲・褒章受賞者祝賀会と東京写真月間オープニングセレモニーを兼ねて開催し 200 名の方々に参加いただきました。

○図録の発行

26年に実施した「東京写真月間 2014」を総括した図録を作成して、ご協力いただいた関係機関に配布すると共に関係各国大使館や図書館、美術館、ギャラリー、行政府等の公共機関にも無料提供。

又、「写真の日 記念写真展」入賞者等購入を希望する写真愛好家には一冊 2,000 円で頒布しました。

この「東京写真月間 2014」の開催にあたり、外務省、環境省、文化庁、東京都、ミャンマー連邦共和国大使館のご後援、各企業、団体からのご協賛、ご協力をいただきました。

## ○「大阪写真月間2014」を共催

大阪の写真文化の向上を目指す「大阪写真月間」は今年で13年目を迎え、下記内容の写真展等を実施しましたが、その趣旨に賛同し協賛金450,000円を協賛して応援しました。

- ①小学生のための写真教室「親子で挑戦！モノクロ写真教室」 5月18日 ビジュアルアーツ専門学校  
参加人数：14家族18名 一眼レフでモノクロフィルムフィルム現像プリント体験。
- ②写真家150人の一坪展 5月25日～6月11日 6会場 参加者138名  
大阪ニコンサロン、ニコンサロンbis大阪、キヤノンギャラリー梅田、富士フィルムフォトサロン大阪、  
ビジュアルアーツギャラリー、オリンパスギャラリー大阪
- ③大阪写真月間ハイスクールフォトアワード2014  
6月5日～6月11日 ニコンサロンbis大阪 参加48校266作品
- ④1000人の写真展「わたしのこの一枚」 6月12日～17日 イロリ村 [89] 画廊 250作品
- ⑤シンポジウム「ポートレートの魔力」 6月8日 ビジュアルアーツ専門学校アーツホール  
パネラー 鬼海弘雄氏・有元伸也氏（写真家）、司会 タカザワケンジ（写真評論家）。参加者115名
- ⑥シンポジウム連動企画展「ポートレートの魔力」 6月1日～7日 ビジュアルアーツギャラリー

## 3. 国際交流活動 【国際交流委員会】・【写真月間委員会】

- ①国際展「アジアの写真家たち2014 ミャンマー」
  - ・ミャンマーから5人の写真家が来日し、日本の写真関係者と交流。また、10月18日～19日にミャンマー連邦共和国大使館主催の「ミャンマー祭り」にアジアの写真家たちミャンマー展を東京・芝の増上寺にて開催
- ②2010～2012年に日本写真協会賞新人賞を受賞した笹岡啓子、藤岡亜弥、大和田良、村越としや、公文健太郎、斉藤麻子各氏6名の作品60点をまとめた写真展「New Horizons (Nuevos Horizontes)」をロシアとメキシコに巡回しました。
  - <ロシア>
    - ・写真展 7月31日～9月28日 イルクーツク州立美術館（イルクーツク）
  - <メキシコ>
    - ・写真展
      - 1) 8月22日～31日 : ハラパ人類学博物館（ハラパ）
      - 2) 9月6日～30日 : ベラクルス大学イスタクソキトランUSBI キャンパス（イスタクソキトラン）
      - 3) 10月14日～30日 : モンテレー・ロベルト・ガルサ・サダ・センター（モンテレー）
      - 4) 11月28日～2015年1月16日 : コリマ大学美術館（コリマ）
      - 5) 平成27年2月5日～4月12日 : INAH 国立写真美術館 FOTOTECA（パチューカ）
    - ・講演会：飯沢耕太郎 「日本現代写真の一断面」  
平成27年2月3日 メキシコ市自主大学（メキシコシティ）、5日 国立写真美術館 FOTOTECA（パチューカ）

### ③講演会の開催

10月11日に清水哲朗氏による講演会「モンゴル、その変化を写して」をJCI16階会議室にて開催、約50名が参加しました。内容の一部は平成26年11月号会報に掲載しました。

### ④27年度海外派遣研修生希望者の文化庁への提出

11月に応募があった27年度新進芸術家海外派遣研修生希望者4名を文化庁に提出、1名採択 美術B写真部門から木村肇氏（ドイツ・デュッセルドルフ 1年）が合格した。

## 4. 写真・映像教育の推進 【写真・映像教育推進委員会】

写真・映像教育の推進事業は、子供達に写真の楽しさ、面白さなど感動と親しみを目的に写真体験教室を実施し、26年度を含めて9年間で、187ヶ所、8,829人が参加しました。

## 平成26年度実施状況

「手作りピンホールカメラ写真体験教室」：17ヶ所 参加人数940名

「デジタル写真体験教室」：12ヶ所 参加人数271名

計29ヶ所 1,211名参加

### ■写真体験教室 平成26年度実施状況詳細

	会場・主催者	内容	開催日	対象	参加数
1	世田谷区立松沢小学校同窓会	デジタル	4月26日	小学1年～6年生	26
2	大田区立中萩中小学校地域子どもクラブ	ピンホール	6月8日	小学1年～6年	30
3	東京都写真美術館	ピンホール	6月28日29日	小学1年～6年	102
4	三鷹市立羽沢小学校地域子どもクラブ	ピンホール	7月5日	小学1年～6年	29
5	長泉町役場（静岡県）	デジタル	7月13日	小学5年～6年	15
6	小平市大沼公民館	デジタル	7月19日	小学1年～6年	12
7	金沢 いしかわ子ども交流センター	ピンホール	7月20日 21日	小学生の親子	105
8	町田市フォトサロン	ピンホール	7月24日25日	小学生以上	25
9	秦野市本町公民館	ピンホール	7月27日	小学1年～中学1年	26
10	世田谷区立松沢小学校コミュニティ@松小	ピンホール	7月30日	小学3年～6年	34
11	フラワーセンター大船植物園	ピンホール	8月2日3日	小学生の親子	92
12	光 HOUSE YOKOHAMA	デジタル	8月13日	小学生の親子	14
13	BumB東京スポーツ文化館① 大江戸探検倶楽部	デジタル	8月19日20日	小学4年～6年	23
14	南足柄市社会福祉協議会	ピンホール	8月20日	特別支援校小学生	12
15	小平第四小学校放課後子ども教室	ピンホール	8月22日	小学生	28
16	名古屋市科学館	ピンホール	8月30日31日	小学生の親子	119
17	BumB東京スポーツ文化館② 大江戸探検倶楽部	デジタル	8月30日31日	小学4年～6年	20
18	私立聖学院小学校1学年図工教科	ピンホール	9月3日、5日	小学1年	65
19	私立聖学院小学校5学年図工教科	ピンホール	9月8日、9日	小学5年	79
20	小平第八小学校放課後子ども教室	デジタル	9月20日	小学生	12
21	横浜市立東汲沢小学校（KASTより委託）	デジタル	9月26日	小4～6年（写真部）	30
22	小平市津田公民館	デジタル	10月18日	小学生	18
23	多摩六都科学館	ピンホール	10月26日	小学校	29
24	小平第十四小学校総合学習授業	デジタル	10月30日	小学3年	66
25	狭山市写真作家協会	デジタル	12月7日	小学生	14
26	神奈川県立横浜平沼高校	ピンホール	H27年1月14、16、21、23日	美術科選択教科高2	78
27	神奈川県立保土ヶ谷養護学校横浜平沼分教室（KASTより委託）	ピンホール	H27年1月14、21日	特別支援高校2年	15
28	調布市立飛田給小学校6年図工教科	ピンホール	H27年2月13日	小学6年	72
29	小平市立小平第十小学校青少年対策	デジタル	H27年3月14日	小学生	21
				合計	1,211

#### ①ピンホール写真体験教室

写真・映像教育推進活動が学校関係者にも広く知られるようになり、小中学校の理科、図工や総合的な学習の時間の正規授業として行われる事例も増えており、高等学校の美術授業においては、撮影実習だけでなく事前レクチャーとして写真・映像全般について講義を行ないました。

主催イベントとしては、東京都写真美術館と共催でピンホール写真教室を実施し小学生の親子102名が参加。

#### ②デジタル写真体験教室

デジタル写真教室では、プログラムの更なる充実を図り29件中12件の写真教室を実施しました。小学校から依頼を受け「カメラを通して周囲の人との身近なふれ合いや、表現することの楽しさ・面白さを体験する」をテーマとした授業なども実施しました。デジタル教室では、テーマを設けた教室の依頼も増えてきています。子どもたちは自由に色々な被写体を追いかけて、大伸ばしの四切プリントに感動し、撮影意図についても的確な意見発表をする子どもが多く、楽しい体験ができた大変好評でした。

神奈川県の「なるほど！体験出前教室」（神奈川県研究者・技術者等学校派遣事業）の講師として採用され、神奈川

県立の養護学校高等部でピンホール写真と横浜市立小学校でデジタルカメラの授業を行ないました。また、教育支援関係者、教育委員会関係者などが集まる「第8回東京都教育支援コーディネーター・フォーラム」に参加し、プログラムの紹介や、学校支援に関わっている方々と交流を深め、効果的な教育プログラムのあり方等について情報・意見交換を行いました。東京、神奈川など首都圏の教育支援事業として認知度を高め、写真映像教育への関心は大きな広がりを見せています。首都圏以外では、名古屋市科学館、石川県写真館協会の協力を得て金沢市内の小学校で親子を対象とした教室も実施しました。

## 5. 日本写真年鑑の発行 【出版広報委員会】

1958年（昭和33年）に創刊の、「日本写真年報」は編集発行事業を《不特定多数の利益の増進》に資する公益事業とすべく年間の写真活動が長年にわたって継続集約された国内唯一の資料となっており、写真関係者はもとより、諸官庁、報道機関、教育機関、美術館、図書館など広く各方面より好評を得ています。2013年版から「日本写真年鑑」と名称変更し、約2倍に増ページして従来の写真業界の年報としての機能に年間を通じて写真界の幅広い情報を掲載。さらに一般読者に興味を持っていただけるような話題を盛り込み、2013年の写真活動状況をつぶさに記録すると共に、将来を展望する内容を追加。本書により老若男女すべての読者にとって、写真を通じて新たな発見が得られるよう2014年版・第57巻を6月初旬に、発行致しました。

## B. 共益事業

### 1. 会報の発行 【出版広報委員会】

26年度は、季刊として年4回、5月・8月・11月・2月に457号～460号を発行し、各時点における協会の活動や今後の計画、写真文化情報などを紹介しました。

#### ・主要掲載記事

- 457号：日本写真協会賞受賞者決定、「写真月間2014」開幕、コロンビアで新人賞展開催、林典子氏講演会
- 458号：日本写真協会賞新人賞受賞者インタビュー、学芸賞受賞者に聞く、文化交流を広げた「写真月間2014」
- 459号：日本写真協会賞功労賞受賞者インタビュー、清水哲朗氏講演会、「フォトキナ2014」
- 460号：写真美術館誕生とコレクション、パブリックコレクションに寄贈される名作、9年目の写真体験教室、

### 2. 日本写真協会賞受賞祝賀会 兼 叙勲・褒章祝賀式典 兼 東京写真月間レセプション 開催

#### 【総務委員会・東京写真月間委員会】

6月2日に笹川記念会館において、日本写真協会賞表彰式及び当該年度の写真界における叙勲・褒章祝賀式典を行ない、引続き受章祝賀会と東京写真月間レセプションを共同開催。会員の親睦を図る意図も含め「写真の日」事業の一環として開催しました。200名の方々に参加いただきました。

## C. 法人運営事業

### 1. 公的機関が主催する写真コンテスト・イベントへの参加協力 【総務委員会】・【写真月間委員会】

公益社団法人に移行後、公的機関からの写真コンテスト等の運営・審査等の相談及び協力依頼あった。

①7月30日～8月1日「清流四万十川でわんぱく体験」（共同企画：四万十町役場、（一社）四万十町観光協会、（株）山の手総合研究所）「町おこし特任子ども広報部員イベント」の写真審査に協力。

②9月21日～22日「東アジア写真文化国際フォーラム」（主催：北海道東川町/東川町「写真の町」実行委員会）

写真文化を地域づくり地域創生の手段をして取り組む全国の自治体・グループとアジアの各国の代表者によるフォーラムの創設を決議し、各地域代表者とパネルディスカッションのコーディネータとして大平業務執行理事が参加。あわせて、「東京写真月間2014アジアの写真家たち」から、バ・ハーン（ベトナム）、アレックス・モー（マレーシア）、ジュハン・シウ（マレーシア）、ウォラナン・チャッチャワンティバーコーン（タイ王国）4人の写真展を開催し、併せてポートフォリオ・レビューを実施した。

## 2. 理事会・総括委員会の開催 【総務委員会】

4月25日の第1回通常理事会において、平成25年度事業報告、貸借対照表および損益計算書の承認、会長の業務執行権代行者決定、役員報酬の支給方法、定時社員総会開催内容を決定いたしました。平成27年3月19日に第2回通常理事会を開催、平成27年度事業計画、平成27年度予算、日本写真協会賞表彰規程一部修正、2015年日本写真協会賞決定を承認致しました。また、奇数月の5月12日、7月14日、9月6日、11月14日、1月19日、3月16日の6回、2ヵ月間の事業報告及び財務状況を代表理事会長、理事副会長に各委員会委員長が報告する総括委員会を開催。

平成27年2月25日に内閣府審査監督官2名による運営組織及び事業活動に関する立入検査が実施され、特に問題なしとの講評をいただいた。

## 3. コンプライアンス 【コンプライアンス委員会】 【総務委員会】

平成27年3月16日 コンプライアンス委員会を開催（大平業務執行理事、井沢理事、上田理事、松本理事）し、平成26年度の公益事業に関し点検を実施。また、内閣府の指示に従い平成27年度に女性理事の就任を実現し、役員候補者を各事業担当委員を中心に会長・副会長にて理事会に推薦、各人ごとに社員総会の決議を得て決定することを確認。

## 4. 展覧会等の後援 【総務委員会】

当協会は公的機関や学校教育機関、マスコミ、写真関係団体等が主催し、内容が文化、教育、国際交流に寄与する写真展等に対して後援・協賛・協力を行っていますが、平成26年度は以下の催事をバックアップしました。

	申請者	写真展名	会期・場所
1	相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会	相模原市総合写真祭 フォトシティさがみはら2014	4月1日～平成27年3月31日 相模原市民ギャラリー他
2	フォトグループ「いぶき」 代表 大木島 毅	フォトグループいぶき写真展 「四季のいぶき」【協力】	4月4日～4月10日 富士フィルムフォトサロン
3	東京新聞（中日新聞東京本社）	「日本初の女性報道写真家 笹本恒子100歳展」	4月5日～6月1日 日本新聞博物館 9月 11日～9月16日 福屋八丁堀本店、11月22 日～12月25日 調布市文化会館たづくり1 階展示室
4	一般社団法人 KYOTOGRAPHIE	「2014 京都グラフィック 国際写真フェスティバル」	4月19日～5月11日 京都市内10カ所
5	篠原誠二	第5回日墨交流写真展	4月24日～5月9日 Galeria Digital Epson
6	礼文島観光協会	2013 彩北航路フォトコンテスト	募集:5月1日～9月30日 催事場所:利札航路
7	株クレヴィス	写真展「昭和」	5月23日～7月6日佐野美術館(三島)
8	朝日新聞社	世界報道写真展2014	6月7日～8月3日 東京都写真美術館、8 月12日～8月21日 大阪・ハービスホール、9月17 日～10月12日 京都・立命館大学国際平和 ミュージアム、10月14日～10月30日 滋賀・立 命館大学びわこくさつキャンパス、11月2日～ 11月16日 大分・立命館大学アジア太平洋大 学
9	日本国際写真連盟	第3回 JIPF 国際公募写真展 【協力】	公募締切日 :6月15日 京都市立美術館本館9月19日～21日
10	株式会社プロメディア	PHOTONEXT 2014 【協力】	6月17日～6月18日 東京ビッグサイト・西4ホール
11	公益社団法人 日本広告写真家協会	第6回「全国学校図工・美術写真公 募展」	7月18日～11月20日(応募受付)、 展示:日本広告写真家協会 本部ギャラリー(平 成27年3月15日～25日)
12	NPO法人 Save the Asian Monuments	イラク写真展『イラク24時』	7月26日～8月7日 国士舘大学イラク古代文化センター・ギャラリー



	申請者	写真展名	会期・場所
13	株山の手総合研究所	「清流四万十川でわんぱく体験」 【後援・協力】	7月30日～8月1日 高知県高岡郡四万十町内各所
14	ミュージアム竹下成果工場	アートイベント島根2014	8月1日～8月31日 ミュージアム竹下成果工場
15	来間小中学校フォトプロジェクト実行委員会	沖縄来間島・来間小中学校 フォトプロジェクト写真展「ぼくたちの 場所」	8月1日～8月7日 ギャラリー・アートグラフ、10月 30日～11月5日 コンパロンbis 大阪
16	東川町写真の町実行委員会	第30回東川町国際写真フェスティ バル (フォトフェスタ2014)	8月5日～9月3日 東川町町内一円
17	学校法人 日本放送協会学園	第21回NHK学園「旅の写真展」	8月20日～8月25日 みなとみらいギャラリー(横浜)
18	日本山岳写真協会	2014山岳写真フェスティバル	8月31日～9月7日 東京都美術館 公募展示室・講堂 他
19	株式会社静岡新聞社・静岡放送株 式会社	わたしの愛する静岡県に乾杯！ 静 岡麦酒で乾杯！ 『MY しずおかフォトコンテスト』	募集期間:9月初旬～11月末日
20	共同通信社、中国新聞社	日本初の女性報道写真家 「笹本恒子100歳展」	9月11日～9月16日 福屋八丁堀本店7階催場(広島市)
21	株クレヴィス	写真展「写真家が捉えた 昭和のこ ども」	9月12日～11月9日 八王子市夢美術館
22	東川町写真の町実行委員会	東アジア写真文化国際フォーラム	9月13日～9月28日 東川町町内一円
23	株クレヴィス	写真展「昭和」	9月20日～12月21日 あすぶらざ(神奈 川県立地球市民かながわプラザ)
24	公益財団法人 土門拳記念館	写真展「わたしのこの一枚」 【協力】	10月1日～10月20日 土門拳記念館
25	「にっぽんー大使たちの視線」写 真展実行委員会	「にっぽんー大使たちの視線 2014」写真展 “Japan through Diplomats’ Eyes”	10月9日～10月15日 六本木ヒルズ ヒルズカフ ェ、11月27日～12月2日 名古屋セントラルパーク ギャラリー、12月9日～2015年1月9日 ひよ うご国際プラザ 交流ギャラリー
26	株デイズジャパン	「第11回DAYS国際フォトジャーナ リズム大賞」	応募期間:10月～平成27年1月15日
27	一般社団法人 日本現代写真家協会	「ピンホールカメラで写真を撮ろ う！」	12月15日 京都市立第三錦林小学校 体育 館
28	学生団体S.A.L. (慶應義塾大学)	Focus on Myself 2014 冬写真展「ぼ くのみる世界」	12月22日、23日 赤いガ`倉庫1号館1階パ`ース
29	一般社団法人 日本写真文化協会	「第61回全国写真展覧会」 【協賛】	平成27年1月5日～2月13日公募 平成27年6月～ 東京都美術館、ポ`ートレートギャラリー、富士フイルムフ ォトサ`ン札幌・名古屋・大阪・福岡
30	一般社団法人 日本現代写真家協会	三錦おやじの会「ピンホールカメラ で写真を撮ろう！」	平成27年1月17日 京都市立第三錦林小学校 体育館
31	日本放送協会学園	第25回NHK学園生涯学習写真展	平成27年2月6日～2月12日 富士フイルムフォ`トサ`ン東京
32	一般社団法人 カメラ映像機器工業会	「CP+ 2015」 【協力】	平成27年2月12日～2月15日 パ`シコ横浜

## 附属明細書

該当事項がないため、記載を省略しております。

以上